

研修名 プレゼン交流会（プレゼンテーション研修）
平成29年1月17日 13:30～16:00
指導助言 大阪府立大学 里見 恵子 氏



1. プレゼンテーション

1) 長岡京市 今里保育園 発表者：石田 京子

「おいもがいっぱい」〈「おいも」つながりの遊びの紹介〉

・概要

おいもほり体験をした子どもたちは、会話の中に「おいも」が登場するようになりごっこ遊びへと展開した。やきいもを作っている時に形への興味関心から造形遊びを楽しむ。「大きいのが良い」「ハートの形やった」「葉っぱつながってた」と思い思いに作る姿が見られる。最後に「おいも」を使ってクッキー作りをして子どもたちが頂いた。一つの題材から様々な活動へ発展し沢山の遊びや取り組みができた。

・助言

発展性があるイメージを広げているのが良い。まとめた活動内容を保護者に知らせ、感想を尋ねると更に良い。おいもクッキーは家庭でも作ってもらえるので相互コミュニケーションが取れる機会になる。

2) 舞鶴市 岡田保育園 発表者：村上 聖子

「農協さん、きりん組支店～夢中になった、玄米づくり～」〈年長5歳児の活動 田植え、収穫、脱穀（玄米づくり）、おにぎりづくりへの展開〉

・概要

近所の畑を借りて田植えから稲刈り脱穀をし、玄米づくりをする。昨年の5歳児が取り組んでいた方法を試してみるが、もっと良い方法がないか自分たちで考え、保護者に尋ねる姿が見られた。友だちと役割分担をし、作業を進めたり、将来農協で一緒に働こうと約束したりして取り組んでいる。クッキングでお米を炊く経験から食べられることのありがたさを学んだ。

・助言

長い時間をかけての取り組みであったが、子どもたちが飽きずに取り組んでいる。次はどうなるか写真で示したり、図鑑を用意したりすることで、何となく見つけるのではなく予測して見るができるようになる。

3) 亀岡市 千代川保育園 発表者：山本 未智

「自然の中には不思議がいっぱい隠れている」〈3・4・5歳児 自然を使った遊び〉

・概要

自然との触れ合いや収穫体験から植（食）への関心を深めている。4歳児は、よもぎとの出会いを通して、子ども同士の考えから様々なことを試し、匂いや色への関心を深めていた。3歳児は匂いのする葉っぱを4歳児に教えてもらい探しに出かけるが、その過程で葉から虫へと興味関心が変わっていった。5歳児は、花びらはどのような仕組みなのかと疑問を持ち、花からできる種の存在を知り、園内地図作りを楽しむ。

・助言

子どもたちが植物と関わる活動ができているのが良い。活動の中で図鑑を用意しておいて、いつでも調べられるようにすると良い。

4)木津川市 なごみ保育園 発表者：後藤 友紀

「おおきくなあれ だいこんさん」〈育てている大根の葉っぱに虫がつかなくなるためには・・・3歳児3クラス3様の考え方について〉

・概要

大根を作る際に虫がついた。どうすれば虫がつかないのか、3クラスそれぞれで考える事にした。ほし組は「おおきくなあれ」とおまじないをし、ひかり組はかかしを作る。つき組は絵本に出てきたぞうの目を思い出し、虫から守ってくれると考えた子どもたちは象の目を作る。その結果、大きな大根が育ち喜びをみんなで共感できた。

・助言

3クラスあると面白い発見がある。同じ目的に向かって取り組み、それぞれの方法で試していく。その中で色々な考え方があっても良いのだと伝えることができている。虫がつかないようにするためだったが、実際に虫を取り除くのではなく子どもたちの意見、子どもらしさを大切にすることができている。

5)宇治市 ひいらぎ保育園 発表者：森下 有

「個を活かすチーム力」〈2歳児 造形あそびの様子〉

・概要

子どもたちに段ボールを渡してみると、中に入り電車ごっこが始まった。更にロープを連結する姿が見られた。ビニールテープとストローを段ボールに貼っていく造形あそびでは、全員が楽しめるように、好きな色のテープや道具を工夫し個々に用意することで飽きないようにした。

・助言

子どもの実態をよく捉えることができている。2歳児クラスでは単発で終わってしまう保育者が多いが、道具を十分に準備して遊びを広げることができている。

6)舞鶴市 市立西乳児保育所 発表者：高嶋 久美子

「三輪車でGo!!」〈試行錯誤と心の成長〉

・概要

3歳児クラスのYくんが三輪車で水たまりに入るとみんな真似をしていた。徐々にぬかるんでくると、YくんとSくんは揺らしたり、立ちこぎをしたりして水たまりから抜け出すが、Kくんは、出られず涙してしまい保育者に抱っこで助けてもらう。悔しかったKくんは、保育者に気持ちを受け止めてもらい落ち着く事ができた。後日、水たまりができた日には1番に三輪車で走って行き、再びみんなと水たまりで遊ぶ姿が見られた。

・助言

大人はどうしても汚れるからと水たまりを嫌がるが、子どもが好きな所をよく捉え、否定せずに写真も撮れているのは良い。街中では無い光景なので大事にして欲しい。

7)宇治市 のぞみ保育園 発表者：田中 優

「たのしいな！こんなことできたよ」〈2歳児 廃材(色々な芯)あそび〉

・概要

色々な芯を使用して廃材あそびをした。積み上げたり足にはめたりしていたが、ある日、保育者がトイレットペーパーの芯を横に2本繋げたものを、廃材置き場に置いておくと「テープをください」と保育者に伝え、真似をして同じものを作りはじめた。更にトイレットペーパーの芯にラップの芯が入る事が分かった子どもたちは、他の芯も入るか試してみる。その様子を見ていた周りの子どもたちも自分が持っている芯が

入るか試していく。

・助言

環境づくりが上手である。次の展開に向けて、道具を提供しているのが良い。沢山の廃材を集めるのは難しいが、異素材ではないもので提供できているのが良い。

8)宇治市 みんなのき黄檗こども園 発表者：田中 みゆき

「藍ものがたり」〈5歳児 藍の栽培と藍染め〉

・概要

5歳児が種から藍を育てる。藍という植物が成長していく過程を観察し、藍染めをしてTシャツを作ったり、成長していく過程を子どもたちがセリフを考えて劇を作ったりする。一年間藍を通して五感を働かせ、植物の成長の視点、科学の視点、生活の視点、表現の視点（劇）から学んだことを保育に取り入れる。

・助言

5歳児になると格段と保育の質を上げないといけない。スライドに子どもをつぶやきを入れると更に良い。劇の内容も見なかった。

9)舞鶴市 ルンビニ保育園 発表者：田中 美穂子、伊田 真帆

「命 大切に 私たちは生きている」〈命について〉

・概要

漁連に勤務されている保護者から生きたタコを頂き、観察した子どもたちはタコの特徴から楽しさや驚きを感じた。さきほどまで生きていたタコを食べ、「頂きます」は生きているものへの感謝だと教えてもらう。次の日から給食を残さず食べられるようになった。生き物を見つけて育てたり、看護師に聴診器を借りて心臓の音を聞いたりして生きているとはどのようなことか学ぶ。「命は大切なもの」と伝えなくても大切にできる園づくりを目指す。

・助言

命については5歳児らしい気づきであった。核家族が増え、お葬式に参列しない人が増えた今では貴重な体験となっている。看護師に聴診器を借りることができる機会はなかなかないので非常に良い機会となった。造形あそびにつなげられるとなお良い。

全体評価

- ・テーマと内容がしっかりと合っている。
- ・子どもの主体性や子ども同士の学びあいが明確になっている。
- ・子どもが次にどのような行動をとるのかを保育者が予測して写真を撮ることができている。
- ・藍づくりや海の物に触れるなど地域の特性が活かされている。
- ・一つのきっかけから沢山の遊びにつなげることができていて良い。
- ・発達とともに連続性のある遊びがとても重要になってくる。

2. 感想

今回、様々な園のプレゼンを見せて頂き、それぞれの子どもの姿から遊びを工夫され、地域の特性を活かした取り組みが多くとても興味深いものばかりでした。すべての事例に子どもたちの主体的な活動があり、保育者が子どもの気づきを感じ取り遊びへとつなげている姿がありました。少しのきっかけで、子ども同士の学びあいや遊びが広がっていくことを改めて感じる事ができました。今後も、子どもたち一人ひとりの姿に合わせた玩具や材料を準備し環境に働きかけた保育を実践していきたいと思えます。ありがとうございました。

(記録 大井保育園 志村 和子)